

6年 国語科研究授業のまとめ（6月15日）

1 単元名及び単元の目標

風切るつばさ（7/8本時）

- ◎ 人物と人物との関係を手がかりに、人物の心情を考えながら読むことができる。

2 本研究授業の提案について

物語文において、人物の関係や心情の変化を根拠に自分の考えを明確に伝え合うための手だてとして、以下の二つを提案した。

- (1)人物同士の関係と心情について、考えたことを人物関係図に表し、これまでの学習を模造紙にまとめて掲示したり、4つの場面のワークシートを一綴りにしたりして、学習の蓄積を振り返ることができるように工夫をした（資料1）。掲示物では、授業で考えたことを想起しやすいように、児童の発言をなるべく生かす形で蓄積

した。また、4つの場面の人物関係図を一並びにして、一目で確認できるようにワークシートを綴じさせた。それにより、物語全体を通じて、各自で読み取ってきたことを振り返ることができるようにした。本時では、付箋に根拠を書き出す場面や話合いの場面で、掲示してある人物関係図に立ち返って考えたり話したりする姿が見られていた。「②の場面で〇〇さんがこういう意見を言っていたように…」と話す子供がいたように、これまでクラス全体で考えてきたことを振り返り、本時の登場人物の心情を考えている様子も見られた。また、付箋に書き出す根拠を見つけ出す際に、ワークシートを広げて、文章全体を根拠にした意見を書いている児童もいた。以上のことから、人物関係図に授業で考えたことを蓄積し、振り返ることができるようにする手だては有効であったと考えられる。

- (2)人物同士の関係を根拠に伝え合えられるようにする手だてとして、課題に対する自分の意見の根拠を、登場人物毎に色分けされた付箋に書き出させた（資料2）。色分けすることで、クルルとカララのどちらの視点から考えた根拠であるか一目で分かるようになった。発表し、話合いを進める際に、自分たちの意見の偏りに気付き、「クルルの方も考えてみよう」と両方の視点から課題について考えようとする様子が見られた。しかし、集約と分類のさせ方を子供たちに考えさせていたため、互いの意見の違いについて付箋を有効に活用して伝え合って考えを広げたり、色分けされた互いの付箋を関連させながら深め合ったりする姿が見られなかった。付箋の活用の仕方を示したり、教師が発問をしたりして、話合いを促進させ深めさせる手だてが必要だったと考える。

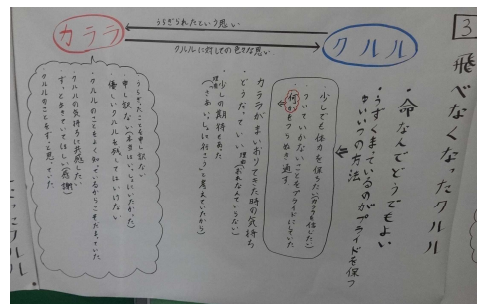
3 本研究授業の授業技術課題について

話合いの時間を確保し、自分たちだけで進めていくことができるように課題の提示と指示の出し方を工夫した。予め本時の流れと話し合う視点を板書で示しておくことで、話合いの見通しを持たせることができた。子供たちは何を話し合えばよいのか自分たちで確認しながら学習を進めることができていた。

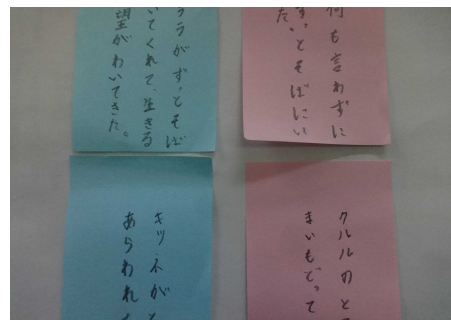
4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえ、次回の授業研究では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・教材文について自分の意見を広げて考えることができる授業展開や発問の工夫。
- ・個々の意見をより効果的に伝え合うための意見交流の場の工夫。



（資料1）人物関係図



（資料2）付箋の活用